

Spotlight

スポットライト

縄文文化の魅力を伝える

TOYAKO 縄文ガイドの会

今年3月、入江・高砂貝塚でガイドを行っていたメンバーを中心とした新たな団体が発足しました。名称は「TOYAKO縄文ガイドの会」。入江・高砂貝塚は、世界遺産の構成資産に登録されてから見学者が急増。虻田の地で育まれてきた縄文文化の

魅力を語り継ぐと、活動を進めています。

入江・高砂貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されたのは2021年7月。1万円以上の永きに渡り、狩猟・採集・漁労を基盤とした定住社会が継続したという世界的にも稀な事実が評価されました。登録を契機に構成資産を抱える地域では見学者が増加。入江・高砂貝塚も2022年度は観光客や修学旅行の小中学生など8千人以上が訪れ、これまでで2番目となりました。

こうした環境の変化に対応するため、ガイドを組織化した団体設立の声が上がっていました。会員は洞爺湖町のほか豊浦町、岩内町などから12人が所属。貝塚内の案内のほかガイドの育成、縄文文化の研修などを行う予定です。設立総会では、入江・高砂貝塚の価値を広め、世界遺産登録にも尽力した「アプタ・フレイの会」会長、神馬久夫さんがTOYAKO縄文ガイドの会の会長も兼務することが決まりました。

また、まつりの冒頭では、縄文時代の衣装を着た子どもたちがたいまつを持って登場。厳かな雰囲気の中、火と共に様々な文化を作り上げた縄文人の精神性を表現しました。

今回のまつりは5月から準備をはじめ、協賛に関してもこれまで以上に民間団体からの協力が得られたといいます。神馬会長は「入江・高砂貝塚を多くの人に知ってもらおうと活動を続けています。来年も皆さんに会うことができたらうれしいです」と話していました。



縄文の精神伝える語り部に

profile

令和5年3月26日設立。現在は会員12人。入江・高砂貝塚館を拠点に活動中。

東奔西走

今回の縄文まつりは快晴でしたが、案内を担当した弓矢体験は日光を遮る物が全くない状況。何とか日差しに耐えていましたが、弓矢に夢中の子どもは暑さなどお構いなし。縄文時代の子どもも同じように暑さを忘れて的を狙ったのでしょうか。(D.Y) さが厳しくなってきました。地元は洞爺湖町より涼しい場所だったので、これから耐えられるか心配です。子どもたちも夏休みに入り、イベントへの参加や外出なども増えてくると思います。体調管理に気をつけて元気に乗り切りましょう。(Y.A)

今月のワンショット



子どもたちが動物と触れ合ったサマーフェスタ2023in洞爺湖